

ジャグパル

JugPal

2004年4月1日 第23号



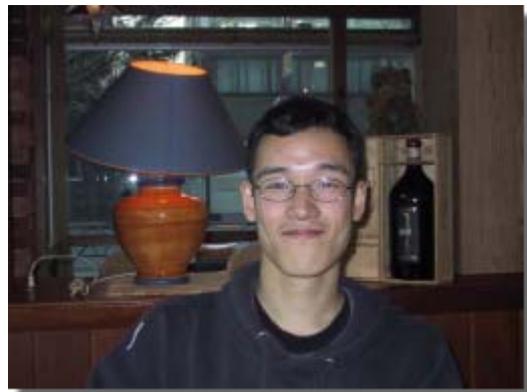
インタビュー

【池田 洋介 さん】

今回お会いしたのは京都在住の池田洋介さんです。

池田さんは現在、平日は予備校の数学教師、休日はイベント等でパフォーマーとして、いわば二足のわらじを履いての生活を送っています。

今般『第3回東京国際フル祭』の出演のため東京に来られることを聞きつけ、絶好の機会とインタビューをお願いいたしました。



ちなみにこのイベントへの出演は、2002年の静岡大道芸フェスティバルで山本光洋さんとサルバドール神山さんが彼のパフォーマンスを気にとめ、フル祭の主催者に観るように薦めたことがきっかけで実現となりました。静岡以東でのパフォーマンスは、2002年のお台場での大道芸コンテスト以来で、舞台公演としては今回が関東地区デビュー！というわけです。

まずは池田さんのユニークな芸歴からご紹介しましょう。

彼は小学生の時にマジックに魅せられ、以降中学生、高校生とマジックをなんと「ターベルコース・イン・マジック」で独学していたそうです。

ターベルコースというのは、いわば世界最高の手品の百科事典です。一巻が400ページ以上あり全8巻で、1,000種類以上の手品が素材別、現象別に分類され、ステージ、サロン、クローズアップマジックなど手品のありとあらゆる分野を網羅しています。この分厚い本を教材として選び、1ページ、1ページ丹念に読みながらひとつずつトリックを習得していったその熱意とこだわりは、現在のパフォーマンスに通ずるところがあるのではないのでしょうか。



ターベルコース

京都大学では数学を学びつつ、当然マジックサークルに入ったものの、たまたまマジックショップで購入したボールジャグリングのビデオ「Three Ball Juggling (Rob Weinstein)」からジャグリングに興味を持ち、ジャグリングを独学で練習し始め次第にのめり込んでいきます。

そして3年生の時のマジックサークルの発表会の時にジャグリングを演じ、喝采を浴びたことがひとつの転機になったようです。その後天保山パフォーマンスフェスティバルで初めて大道芸というものを見て、翌年には渡辺彰さんとコンビ「Donuts」を結成、同フェスティバルに参加して優勝をさらってしまいます。



Three Ball Juggling

そうそう忘れてならないのは、彼は“京都大道芸倶楽部 Juggling Donuts”
<<http://juggling-donuts.org/>> の創始者の一人でもあります。4月に発表会
があるそうです。(5ページの「イベント情報」をご覧ください)

3年ほど前からはマイムを「おしゃべりなパントマイム (カンジヤ
マ・マイム著)」と「パントマイムのすべて (クロード・キプニス著/
カンジヤマ・マイム訳)」という2冊の本からこれまた独学し始め、
パフォーマンスの内容に広がりと深さを出すようになります。今
ではマイムの方がジャグリングより自分の世界を描きやすいの
で重きをおいているとのこと。



おしゃべりなパントマイム



パントマイムのすべて

お話をお伺いして面白いと感じたのはマジック、ジャグリング、マイムと関わってきた芸を全て独学で習
得してきたという点です。ご自身も仰っていましたが、人がやっていないことをやること、そして試行錯
誤しながらひとつひとつを着実にものにしていき、ショーの構成等も一人で創り上げていく…そういった
過程が好きだそうです。

そうそうショーの音楽も自作していて、今回特別に音作りにどのような機材を使っているのか、教えて
いただきましたのでご紹介いたしましょう。

パソコンでの音楽編集は、

ミュージ郎SC-8820(シンガーソングライター6.0とMIDI音源のパッケージ)

<<http://www.roland.co.jp/products/dtm/MUJIRou99.html>> と

ACID Pro4.0 <<http://www.hookup.co.jp/software/acid4.0/acid4.0.html>> を使ってらっしゃいます。

音楽と言えば、何と大学生の時には路上で弾き語りをやっていてそこそこ小遣い稼ぎをしていたそう
です。実質これが大道芸デビューだったのですね。

現在は路上での大道芸よりも劇場でパフォーマンスを演じる方が自分には合っていると仰います。し
っかりと創り込まれてテンポが良い演劇や映画が好きで、よく劇場には足を運ばれるようで、彼の緻
密な作品創りにもその影響があらわれているのでしょう。

ところで予備校の生徒達には、ご自身がパフォーマーであることは伝えていないのですが、それでも
偶然にも池田さんのパフォーマンスを生徒達が見かけてしまうことがあるそうで、これぞまさしく“ハブ
ニングパフォー - マンス”と言え、生徒達にとってはこれ以上の驚きはないでしょうね。その時の生徒の
動揺ぶりを想像すると可笑しくなります。

また予備校のお話を伺っていると、何やらパフォーマンスとの共通点が多々あることに気づきます。
例えば教師は単年契約で、生徒達からの評価度合いで契約が續行したり、打ち切られたりするそう
で、生徒達からの信頼と人気がないと勤まらないことが分かります。

生徒を観客と置き換えれば、授業自体もある意味パフォーマンスとしてとらえられ、声の通りやすさ、
魅力ある内容、個性が必要とされている訳です。池田さんはきっと、さぞ楽しくも内容の詰まった授業
をされているのでしょうね。

さて目標や夢をお伺いするのがインタビューの常ですが、今回は“マニフェスト”と称して池田さんから
“公約”をお願いしました。と言うか嫌がる彼から、無理矢理ほとんどでっち上げてしまったと言うのが
本当のところですが。

『 モントリオール・コメディフェスティバルに参加する！ 』

このフェスティバル<<http://www.hahaha.com/splash/flash.html>>では世界各国から多くのパフォーマー
が集まり、屋内外で2,000を超えるパフォーマンスが披露されますが、テレビでも時折放映されている
ので、彼の姿を画面上で見かける日もそう遠くはないかもしれません。楽しみに待っていきましょう。

さて最後におめでたいお知らせを。

池田さんは5月にご結婚予定で、既に新居も準備されているようで、ご結婚後はますます練習に身が
入ることでしょう。お幸せに！これからのご活躍を期待しています。

(参考)池田洋介オフィシャルサイト <<http://yosuke.web.infoseek.co.jp/>>



公演レビュー

【池田洋介 「Rhythm / リズム」 「Modern Times / モダンタイムズ」】

緻密な構成のジャグリング・ショーを発表することで定評ある京都ジャグリング・ドーナツの中心メンバー、池田洋介さんが東京のショーに出るということを知り、2003年3月14日(日)、第3回東京国際フル祭・オムニバスBを見に行きました。

他の出演者(加納真実、ふくろうじ、Cie Baladeu'x(カンパニー・バラデュー:ベルギー))も面白かったですが、ここでは池田さんの演目「Rhythm / リズム」と「Modern Times / モダンタイムズ」の感想を述べることにします。



フル祭での公演 copyright : ACC

池田さんが書いた文章や Web ページを読んだことがある人はご存知でしょうが、彼は凝り性で完璧主義な人だと思います。そして今回の作品にも、彼の「凝り性」が良い意味でよく出ていました。

どちらの作品も、背景となる音楽や擬音をマイムやジャグリングの動きと巧みに同期させたもので、タイミングがばっちり合っていることはもちろんなのですが、その音楽や擬音がとてもよく考えて作り込まれているのです。

市販の音楽や擬音集を使っただけではとてもできない複雑なもので、当然、池田さんが自分で楽器やコンピュータを用いて作ったのだらうと思いますが、間の取り方のうまさといい、笑いを誘う奇妙な擬音といい、自作の音源から「マイ・ガール」の原曲へ違和感なく自然につながっていくところといい、何度も試行錯誤と取捨選択を重ねて蒸留していったものであろうことが推測できます。

そして、その音楽と効果音を100%活かせるのも、メリハリのはっきりしたマイムとミスが少ないジャグリングがあってのことです。特に、音楽にあわせたジャグリングではテンポのずれもドロップも許されませんが、この課題をほぼクリアするだけでなく、動きとしても美しく見せることに成功しています。また、オムニバスB全体を通じて、低年齢の子供達が一番笑っていたのが池田さんの作品であったことも書き留めておきましょう。

「リズム」では、メトロノームが刻むリズムが主人公に伝染し、それを止めようとしてコミカルな戦いが始まります。一転して、主人公がリズムを受け入れると、舞台は楽しいリズムと音楽でいっぱいになり、リズムカルな1ハットと3ハットのルーチンへとつながっていくのですが、合間には観客参加のリズム演奏も入り、「リズム」というテーマでつながった一貫性のある中編に仕上がっています。

「モダンタイムズ」は、人工知能搭載と思われるロボット義手を付けた男が、最初はその便利さを享受するのだけれども、やがて義手に振り回され始め、最後はひどい目にあうという作品で、同名のチャプリン映画のテーマを踏襲しつつ、マイムの動きの面白さを存分に活かしています。ラストでの小道具の鏡の使い方にも、うならされました。

実は私は、これらの作品の原形を以前に見ています。

「Rhythm / リズム」はジャグリング・ドーナツ・ライブ2002のビデオで、「Modern Times / モダンタイムズ」はジャパン・ジャグリング・フェスティバル2003の会場で見えており、そのときも感心したものでしたが、今回の公演ではどちらもさらに磨き上げられていました。

2002年の「リズム」は、前半は今回同様で面白かったのですが、後半が「壁」を使ったマイムになっていたため、「なぜそこでステレオタイプな「壁」を出す必要があるのか？「リズム」というテーマはどこに消えたのだ？」と欲求不満を感じたというのが正直な感想でした。しかし、「リズム」というテーマで一貫してまとめ上げられた今回のバージョンを見て、(自分が勝手に出した)宿題の答をもらったような気がして大変嬉しく感じました。

最後に、今後の課題だと私が感じたものを、僭越ながらいくつか挙げさせてもらおうと思います。2作品しか見ないでの感想なので、的外れだったら笑ってください。

まず、「登場人物のキャラクター」ではなく、「池田洋介のキャラクター」がもう少し欲しい気がします。作品に「池田色(いけだいろ)」が十二分に出ているのは上に書いた通りですが、仮に誰か他の人が作品をコピーしても、「作品の力」で同じ面白さが出てしまう気がするのです。これ自体は作品の完成度が高く、力があるということで、決して悪いことではありません。すごいことです。

しかし、「この人がやるからこそ、この芸は面白い」という要素も、パフォーマンスにはあるのではないのでしょうか？

たとえばシルク・ド・ソレイユ「Quidam(キダム)」の「ジョン」役が同じ内容の演技をしていても、原形を作った初代の John Gilkey にしか出せない「味」があるように、作品の下に見え隠れする「演技者の色」というのはあると思うのです。ここをぜひ伸ばして欲しい。

「演技者の色」が具体的に何なのか、書いた自分もよく分かりませんが、糸口は見えていそうな気がします。たとえば、「意外なこと」が起きたときに驚いて観客を見渡す池田さんの表情には、独特の「味」がありました。これを拡げていけば、また面白い展開があるかも知れません。

一方、前に書いた「演技者の色」と矛盾しますが、池田さんの立ち姿を横から見ると、首が少し前に出ており、特徴的です。



フール祭での公演 copyright : ACC

これが「キャラクターとしての姿勢、ねじれ感の表現」に過ぎず、わざとやっているのならよいのですが、もし単なる「くせ」だとすると、他のキャラクターを演じるときに邪魔になるので直した方がよいと思います。もちろん、この姿勢を「池田色(いけだいろ)」を出すための要素として用いるのであれば、それも面白いでしょう。

今回見た2作品は、たまたま私が以前にも見たものを改良したものでしたが、とても楽しめ、感心もしました。

池田さんが現時点で他にいくつかの作品を持っているのか知りませんが、この質の高さを保ちつつ作品を量産するのはかなり大変なことでしょう。しかし、池田さんには、ぜひこの困難な課題にチャレンジしていただきたいと思います。また作品を見るのが楽しみです。

[西川 正樹 <nishi-m@tkf.att.ne.jp>]



イベント紹介

トリトン・パフォーマンスフェスティバル
<http://www.triton-shop.com/>
 晴海トリトンにて(無料)
 4月10日(土),11日(日)12:00 ~ 18:00

中国雑技“燃焼系ダイバ式”ライブ
<http://sega.jp/joyopolis/tokyo.html>
 東京ジョイポリスにて
 無料(ジョイポリス入館料が必要)
 4月29日(木),5月1日(土) ~ 5日(水)
 13:00,15:00,17:30 開演/各日

広東雑技団
<http://www.min-on.or.jp/news/>
 主催:MIN-ON(民音)
 2月10日(火) ~ 4月30日(金) 全国公演展開中
 MIN-ONチケットセンター:03-3226-9999

木下サーカス
<http://www.kinoshita-circus.co.jp/>
 横浜公演
 2月14日(土) ~ 4月19日(月)
 毎週木曜日休演
 横浜みなとみらい121特設会場
 (JR横浜駅徒歩7分)
 またはみなとみらい線新高島駅南すぐ)
 横浜公演事務所:045-663-0009
 大阪花博公演
 4月29日(木) ~ 7月6日(火)
 毎週木曜日休演
 (木曜日が祝日の場合は開演)
 花博記念公園特設会場
 (地下鉄鶴見緑地駅前)

第28回野毛大道芸

<http://www.nogedaidougei.com/>

第28回野毛大道芸:4月17日(土)・18日(日)11:30 ~ 17:00

野毛大道芸inみなとみらい121:

4月17日(土)12:00 ~ 19:00 / 18日(日)12:00 ~ 17:00

野毛大道芸inイセザキ:

4月17日(土)12:00 ~ 17:00 (ナイトショーあり) / 18日(日)12:00 ~ 17:00

関連企画

大道芸イベント伊藤多喜雄コンサート:4月3日(土)15:00・18:00の2回公演(入場無料)

カバレット・シャレードVOL.2『野毛・歌のアルバム』:4月17日(土)19:00開演

吉田町通りアートフェスティバル:4月17日(土)・18日(日)12:00 ~ 17:00

野毛大道芝居『野毛版・一気に忠臣蔵』:4月16日(金)・17日(土) 1部18:00, 2部20:00

野毛流し芸:4月23日(金)・24日(土)18:00 ~ 21:00

野毛大道芸アートディレクター森直実個展「WALL3」:4月12日(月) ~ 18日(日)11:30 ~ 18:00

最終日は17時まで

キグレ New サーカス

<http://www.session.ne.jp/kigure/>

広島公演

3月13日(土) ~ 5月30日(日)

商工センター特設会場

(広島市西区扇2丁目1-1)

広島公演事務局:082-276-2701

ポップサーカス

<http://www.pop-circus.co.jp/>

長崎公演

3月6日(土) ~ 4月18日(日)

New スターシップ BIGテント会場

(JR長崎駅横ポートアリーナ)

長崎公演事務局:095-832-8210

佐世保公演

4月29日(木) ~ 6月13日(日)

New スターシップ BIGテント会場

(JR佐世保駅港側)

ポートルネッサンス21計画地)

佐世保公演事務局:0956-42-4361

Juggling Donuts Live 2004

<http://juggling-donuts.org/>

日時(2回公演)

4月24日(土)

1回目 13:30開場 14:00開演

2回目 18:30開場 19:00開演

会場

京都教育文化センター

(京都市左京区聖護院川原町4-13)

料金

大人 1,500円/前売1,300円

大学生 1,000円/前売800円

大学新入生・高校生以下 500円/400円

ご予約・お問い合わせ

ticket@juggling-donuts.org

企画・構成・演出

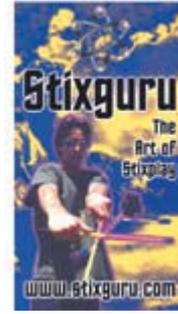
京都大道芸倶楽部ジャグリングドーナツ



デビルスティック・ビデオ紹介

【 Stixguru : The Art of Stixiplay 】

情報があまり豊富とは言えなかったフラワースティック、デビルスティックの分野に昨年加わったビデオです。教習ビデオのようにも見えますが、教習ビデオとしては今ひとつです。しかし、ある程度できる人にとっては技の宝庫といえましょう。



言葉による説明は全く無く、BGMが流れる中、様々なロケーションで次々と技を見せていくという形になっています。技名の表示とともに同じ技を3、4回繰り返す、必要に応じてスローモーションが入ります。また、途中のあちこちと最後に、フリースタイルのデモ演技がいくつか収録されています。

全体に、PeaPot Video の 3 Balls Different Ways (ボール) や Radical Fish News (クラブ) に近い感じの作りですが、おふざけはありません。ところどころに古今東西の格言が英語字幕で入りますが、読む必要は特にないでしょう。

内容は技の系統別に章立てされており、難易度別には分かれていません。やさしい技と難しい技を並べて紹介しているので、初心者には自分が挑戦できる技を拾い出すのが大変だと思われる。

また一部ではありますが、ある技を繰り返し見せている間に失敗しかけてリカバリを入れているところがカットされずに残っていたり、反対に余裕のあまり即興のオマケ技が入っていたりで、見ていて「あれ？今なにやったの？」と混乱する箇所もあります。あえて意地悪な言い方をすれば、「腕自慢が、できる技を全部並べて見せた」という評もできてしまうビデオです。

その一方で、デモンストレーターであるマイケル・セイザー (Michael Sather) の高い技術と技の多彩さには目を見張るものがあります。フラワースティック特有の遅い動きと粘りを活かして次々と繰り返される高難度の技に加え、両端の房にハンドスティックを引っかけて行うフラワースティックならではの技や、腕、脚、頭を総動員した技が山盛りに紹介されています。

デビルスティックではちょっとできそうにない技の難度と手数のに多さに、デビル派の私が思わず「フラワースティックってずるい」と負け惜しみを漏らしてしまった気持ちは、デビル使いの方には分かってもらえるのではないのでしょうか？



Michael Sather さん
(画像提供は本人から)

(注) さらにハンドスティックをペン回しのように指先で回すフラリッシュの数々や、フラワースティック2本での様々な技にも章を割いています。フラワースティックあるいはデビルスティックで一通りの技ができるようになった人にとっては、とても刺激的なビデオで、次に挑戦する技を捜すにはもってこいと言えるでしょう。

映像は並以上に鮮明で、変化に富んだ美しい背景のおかげもあり、見ていて苦になりません。環境ビデオのように、流しっぱなししておくのも悪くない感じです。ただし、「編集機の機能を一通り全部試してみました」という感じの過剰な映像効果はややうるさい気がします。

センタースティックとハンドスティックによるジャグリングの章は、光るアイディアがいくつか含まれているものの、クラブジャグリングの基礎技が延々と続きます。どうせ説明がないなら、この部分はクラブジャグリングの入門ビデオに譲って、他の技を紹介してもよかったのではないかと思います。

収録されている技は難しく複雑なものが多いので、もしも続編を作ることがあるならば、上下がはっきり色違いのセンタースティックを使ってもらえると、動きが分かりやすくなるのではないのでしょうか？

(注)

私は、マイケル・セイザーによるデモンストレーションを1999年のIJAフェスティバルで間近に見ています。その時も彼は見物人置いてきぼりでいろいろな技を見せていたのですが、「デビルスティックでも同じことができるか？」という質問に答えて、デビルスティックでもほぼ変わらない技の冴えを示していました。「弘法筆を選ばず」ということですね。

題名: Stixguru : The Art of Stixplay

時間: 77分

形態: NTSC VHS ビデオテープ

価格: 25米ドル

Web: <http://www.stixguru.com/> (サンプル動画あり)

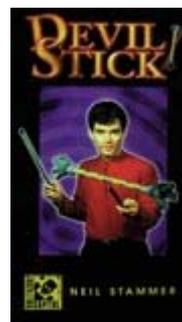
取り扱い: Dube' <<http://www.dube.com/>>

Todd Smith <<http://www.toddsmith.com/>>

ナランハ <<http://www.naranja.co.jp/>> (日本語字幕版が4月10日に発売予定)

【 Devil Stick with Neil Stammer 】

初心者の入門ビデオとしては、現時点(2004年3月)ではこちらを勧めます。長さが24分なので、扱う技の数は限られるものの、重要な基本技とその派生技をほぼ難易度順に丁寧に説明しています。説明用に動きの遅いフラワースティックを使い、スローモーションやジャグラー本人の視点からの映像を併用し、技のポイントを言葉で丁寧に解説します。



また、最後に収録されているデモンストレーションでは、教えた技を中心に組んだルーチンをデビルスティックできびきびと演じてデビルスティックの魅力を引き出し、さらにファイアーデビルスティックも見せます。ニール・スタマー(Neil Stammer)によるお手本はとてもきれいでかっこよく、Stixguruには出てこない技もあり、一見に値します。

解説の英語は、やや早口です。ナランハから日本語訳付きで出ているので、ヒアリングが苦手な方にはそちらを勧めます。黒い背景の前で黒っぽい衣装を着て手本を見せるため体の動きが見づらい箇所があったり、色がややにじんでいたり、画質については改善の余地があると思います。

題名: Devil Stick with Neil Stammer

時間: 24分

形態: NTSC VHS ビデオテープ

価格: 20米ドル

取り扱い: Dube' <<http://www.dube.com/>>

Serious Juggling <<http://www.seriousjuggling.com/>>

ナランハ <<http://www.naranja.co.jp/>> (日本語訳を別刷りで添付)

なお、これらのビデオの日本語版についてナランハに問い合わせた際、日本人講師による教則ビデオ/DVD(仮題「ファンタスティック・デビルスティック」)を製作中で、2004年4月末から5月初めに発売予定であることを教えていただきました。これまた、楽しみです。

[西川 正樹 <nishi-m@tkf.att.ne.jp>]



書籍紹介

【ターベルコース】

書名:ターベルコース・イン・マジック
(Tarbell Course in Magic)

著者:ハーラン・ターベル

訳者:加藤英夫

発行:テンヨー

<http://www.tenyo.co.jp/magic/catalog/onsale/bc002.html>

池田さんのインタビューで出てきた書籍ですが、あれっ?こんな良い本を今まで紹介していませんでしたっけ…いかにいかに。

文字通りマジシャンのための本ですが、マジックのテクニカルな部分の記述は抜きにして、ジャグラーにとっても一読の価値ある箇所が幾つかあります。

それは人前でショーを演じるパフォーマーに共通する事柄で、ジャンルを問わずに大いに役立つこと“間違いない!(長井秀和風)” 例えばお薦めは以下の内容など。

第1巻:レッスン2「手品における科学」

第2巻:レッスン20「観客を楽しませるには」

第3巻:レッスン34「マジックショーの構成」

レッスン35「観客を笑わせるには」

第5巻:レッスン71「プロ手品師のための売込みと宣伝方法」

第8巻:レッスン92「思想とアドバイス」

レッスン103「手品で稼ぐ」

[安部 保範 <chansuke@chansuke.net>]

アンダー・ザ・レック



いいづかちささん初登場!

いいづかさんの4コマは
“Touchさんのけん玉 どっこむ”
<<http://kendama.com/>>の
「おちゃめなけん玉につき〜!」
でも読むことができます。

編集後記

『13歳のハローワーク(幻冬舎/村上龍著)』という本が売れているそうです。仕事の百科全書とでも言うのでしょうか、約500種の職業が紹介されています。つまり早いうちから自分の興味あることを見つけ出し、大人になって“好きなことを仕事にして人生を充実させましょう”ということなのですが、「アートと表現に関する職業」の章に大道芸人、サーカス団員、マジシャン、そして腹話術師等の職業が取り上げられています。

またこれも小中学生を対象にしたであろう、ほるぷ出版の「知りたい! なりたい! 職業ガイド」シリーズ内で『人々を楽しませる仕事』という本があり、この中ではサーカス団員、マジシャン、漫才師の3つの職業が紹介されています。

まあ何だか大きなお世話という感もありますが、「国際サーカス村協会」にも小学生や中学生から“サーカスアーティストになりたい!”という問い合わせが来たりして、確かに「いい大学を出て、いい会社に入れば安心」という時代は終わりを迎え、あらゆる局面で多様性の社会に突入したようです。そんな社会からはどのようなアーティストが生まれてくるのでしょうか、楽しみです。

ジャグパルは私という個人が野次馬根性丸出しで、単なる趣味として発行していて、特定の企業、団体あるいはパフォーマー個人には一切関係しているものではありません。

ジャグパルはWeb上でも読めますので、紙での郵送が不必要な方はご連絡ください。

WebサイトJugPal:<<http://www.chansuke.net/jugpal/>>

編集発行人:安部保範

住所:横浜市栄区公田町424-9 (〒247-0014)

見世物広場:<<http://www.chansuke.net>>

E-mail:chansuke@chansuke.net